

市の基本的な考え方

実施した意見募集では、計画案に対するご意見だけでなく、様々なご要望もいただきました。その中でも多くあったものが、「3年保育」や「延長保育（預かり保育）」、「給食」の実施、「親子登園」や「子育て相談」などの子育て支援の充実などについてでした。

また、市立幼稚園は、小学校区単位で整備された経緯があることから、現在も36園ありますが、受入可能園児数に対する利用園児充足率は、26%（平成25年5月現在）となっており、過小規模となっている園が多くあります。さらに、待機児童を解消しなければならない市立保育所においても定員充足率は、全体で87%（平成25年3月現在）となっており、市立幼保施設が多様化する市民ニーズに的確に対応できていないと言わざるを得ない状況にあります。（19頁【資料③・④】参照）

以上のことや施設の老朽化が進んでいること等を総合的に勘案すると、これまで本市が培ってきた市立幼保施設における教育・保育を将来にわたって持続可能なものとするため、さらには、より充実したものとするため、本市は、幼保再編を計画的に進める必要があると考えます。

いただいたご意見にもありましたように、確かに市立幼保施設を再編し、地域の施設が閉園となった場合、通園距離が長くなることは、利用者の皆様には大変ご迷惑をお掛けすることになります。

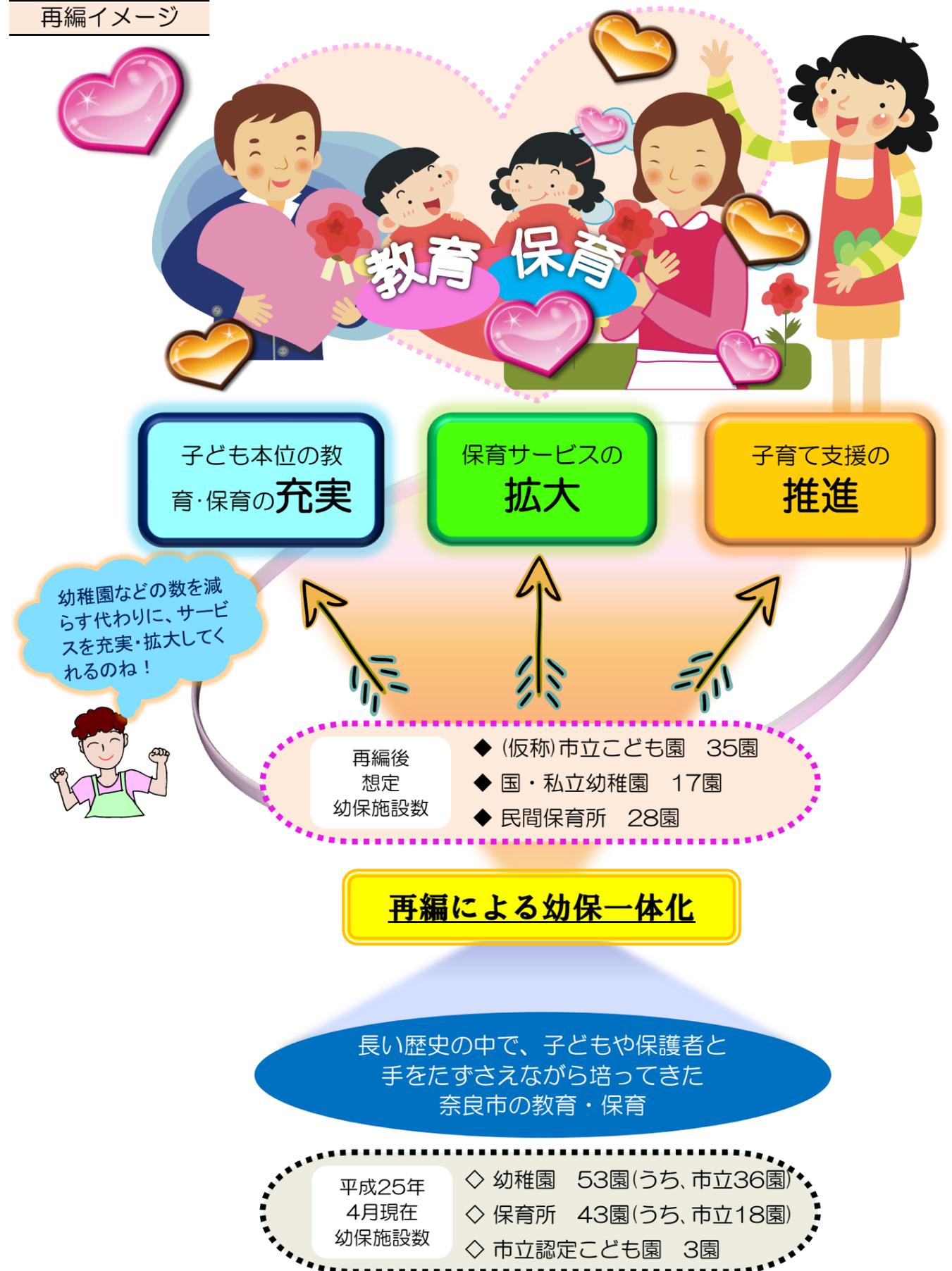
しかしながら、幼保一体化すれば、これまで、施設数が多くあることで分散してしまっていた利用園児数の規模を適正なものにできることと合わせて、本市がこれまで培ってきた幼児期の教育・保育のノウハウを効果的に活用することで保育サービスを一層充実できるようになります。

つまり、次代を担う子どもにとって、またその保護者にとって、より魅力的な教育・保育環境となると考えます。

再編により、「(仮称)市立こども園」で進める教育・保育イメージについては、次ページをご覧ください。



再編イメージ



未来を担うすべての子どもたちのために、市立幼稚園と市立保育所は生まれ変わります 【平成25年度～29年度】

- ◆ 奈良市の次代を担う就学前のすべての子どもたちが、安全に、健やかに、いきいきと生活できるように、既存の市立幼稚園と市立保育所を再編により一体化することで、互いのよさを活かした質の高い教育・保育を提供します。
- ◆ 安心して子育てができるように、様々な面から、すべての子どもと子育て家庭を支援します。



新しい幼児期の教育・保育のかたち

子ども本位の教育・保育の充実

これまでの幼稚園児・保育園児が、ごく当たり前と一緒に生活できる、入園から小学校就学までの一貫した教育・保育を担う一体型施設として、年齢に応じた適切な集団規模のなかで相互に支え合い育ち合える、子ども主体の教育・保育を実施します。

保育サービスの拡大

預かり保育・延長保育・給食など、これまでの幼稚園や保育所のもつ機能がさらに充実することで、保護者の就労状況に関わりなく、継続して施設を利用できるようになります。また、特別な支援を必要とする子どもの受け入れ態勢なども充実します。

子育て支援の推進

「(仮称)市立こども園」に通っていない子どもの家庭も含め、子育て中の親子の居場所や仲間づくり、子育て相談、情報提供などを通して、地域の子育て支援の拠点として、安全・安心な子ども・子育て支援を行います。

市立幼稚園

再編による
幼保一体化

市立保育所

※ (仮称)市立こども園

	保育を必要としない	保育を必要とする
3～5歳 就園児	学校教育・保育 延長利用 給食	
0～2歳 就園児		教育・保育 延長利用 給食
未就園児	親子登園や子育て相談等 担当職員を園配置	

※(仮称)市立こども園とは、「子ども・子育て支援新制度」に基づく、幼保を一体化した認可施設(新たな「幼保連携型認定こども園」)のことをいいます。



たくさんの友達と遊ぶの楽しい！
次は何して遊ぼうか！！



安心して子どもを園に預けて働けるね。



小さな子どもをもつ親同士、子育て情報が交換できて助かるわ。
子育てって楽しい！